後記

山田辰雄教授は定年まで一年を残して、本年三月末日をもって本塾大学法学部を退職され、四月より新たに放送大学教授に就任される。これを記念し、特集として編集された論文集が本号である。本号に御寄稿いただいた執筆者の顔ぶれを見ただけでも、山田先生の塾法学部における存在の大きさが理解できる。

山田先生は長年、塾を代表する近現代中国研究者として日本と世界において広く知られてきた。特に山田先生の中華民国政治史研究は、他に追随を許さないほどに日本の中国研究の最先端を切り開いてきた。中国共産党を中心とした中国現代史観に対して異論を唱えた「民国史観」、あるいは中華民国と中華人民共和国という二つの時期の連関性を指摘した「歴史的連続性」の議論は、近年の現代中国学界で盛んに取り上げられたテーマであるが、これらはいずれも山田先生により提起されたものである。また、近年は中国の環境問題研究にも精力的に取り組むなど、新たな問題領域にも関心を広げられている。

山田先生が大学と学部の発展と教育に注がれた熱意と貢献も忘れてはならない。山田先生は平成七年から一一年までの四年間、法学部長の職にあったが、この間一九九八年には政治学科開設百年があり、山田法学部長のもとで数々の記念行事を大成功のうちに無事終えたことは記憶に新しい。また塾創立一二五周年記念の一環として設立された慶應義塾大学地域研究センターは、現在では日本の現代東アジア研究の中心として広く認識されているが、その基礎は山田先生が所長として活躍された一九八〇年代末から九〇年前半にかけての六年間に形づくられたことも記憶されるべきである。

山田先生の門下生は数多い。私自身もその一人であるが、この論文集に寄稿した執筆者にも、山田先生のもとで薫陶を受けた研究者が多い。われわれの願いは、本論文集により山田先生に対するこれまでの学恩に少しでも報いることである。

最後に、山田先生の今後の御健勝とさらなる御発展を切に祈念して結びとしたい。

平成一四年一月

法学部教授　国分良成